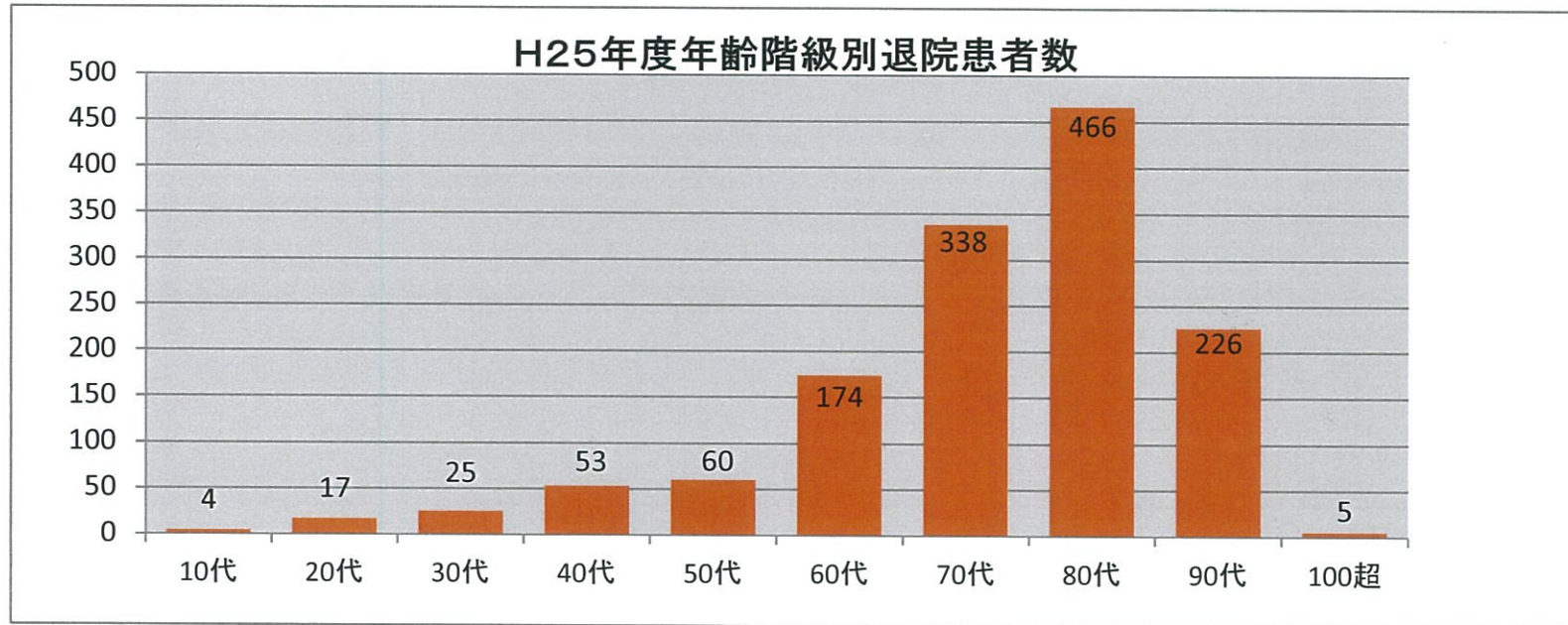


①年齢階級別退院患者数

年齢階層	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100超	総合計
患者数	4	17	25	53	60	174	338	466	226	5	1,368



解説

退院患者様全体の75.7%が70歳以上の方となっており、特に80歳以上の患者様が全体の51%を占めています。
 地域に根差した高齢者医療の一役を担っています。
 また、急性期治療が終了した後もスムーズに退院していただけるよう、近隣の病院や施設等と連携し、医療相談員などの在宅復帰支援担当者による退院調整をおこなっています。

②診療科別症例件数トップ3

●内科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日 数 (日)	全国の 平均在院日 数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
040080X099X0XX	肺炎、急性気管支炎(15歳以上) 手術なし 手術・ 処置等2 なし	135	26.22	15.13	1.54	78.99	なし
040081XX99X0XX	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2 なし	118	27.30	23.03	2.70	85.06	なし
060100XX02XX0X	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。) 内視鏡 的結腸ポリープ・粘膜切除術等 副傷病なし	82	3.44	2.78	0.00	62.67	なし

解説

高齢者に多い疾患である肺炎が1、2位を占めています。
年齢階級別退院患者数でも考察したように、80歳代以上で寝たきりの患者様も非常に多いため、在院日数は全国の平均と比べて長くなっております。
大部分の方は軽快退院されていますが、病状が回復して療養型病院や近隣の精神科病床から受け入れた患者様が戻っていかれるといった形で転院される場合もあります。
第3位の疾病は主に大腸ポリープで内視鏡的に切除術を受けられた症例です。当院は、人間ドック・健診部門も充実しており、疾病の早期発見のお手伝いも積極的にさせて頂いております。
内視鏡検査・治療を得意とする常勤内科医師が在籍し、健診・ドックで要再検とされた患者様には速やかに内視鏡検査を受けて頂ける体制をとっております。
大腸ポリープを切除後は、経過観察のため2～3日入院していただいております。大腸ポリープは癌化する可能性もあるため、早期の治療をおすすめしており、この疾病に関しては40～60歳代の現役世代の患者様も多いです。

●外科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日 数 (日)	全国の 平均在院日 数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
060160X002XX0X	単径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 単径ヘル ニア 副傷病なし	9	2.67	5.63	11.11	74.22	なし
060335XX0200XX	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手 術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	8	7.50	8.65	0.00	65.5	なし
060040XX99X60X	直腸肛門(直腸・S状結腸から肛門)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 6あり 副傷病なし	7	3.00	4.49	0.00	69.00	なし

解説

消化器の手術を得意とする常勤外科医が在籍しています。
第1位は単径ヘルニアで手術を受けられた症例です。ほぼ、一泊から二泊の入院期間となっております。
第2位の疾病は主に胆石性胆のう炎で、腹腔鏡を使用して胆のう切除術を受けられた症例です。腹腔鏡下での手術は、術後の傷口も小さく、体への負担も少ないので入院日数も短めです。
第3位の疾病は、直腸癌で、術後の補助的化学療法のため定期的に入院されている症例です。

●整形外科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日 数 (日)	全国の 平均在院日 数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
160690XX01XXXX	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	10	38.50	30.47	0.00	82.80	なし
160690XX99XX0X	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)手術なし 副傷病なし	7	21.29	23.01	0.00	87.57	なし
160990XX99X0XX	多部位外傷 手術なし 手術・処置等2 なし	5	24.50	20.64	0.00	83.25	なし

解説

高齢の方の転倒に伴う骨折や、骨がもろくなる骨粗しょう症が原因での腰椎・胸椎の圧迫骨折による入院が上位を占めています。平均年齢はいずれも高く80歳代、在院日数は第2位の疾患以外は長めとなっております。第1位の疾患は、大腿骨の股関節側の骨折で人工骨頭を挿入する手術をうけられた症例です。第2位は胸椎・腰椎の圧迫骨折で手術せず、固定帯等での安静目的で入院された症例です。第3位は複数部位の骨折、外傷で手術の必要のなかった入院の症例です。

●眼科

DPCコード	名称	症例数	自院の 平均在院日 数 (日)	全国の 平均在院日 数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス
020110XX97XXX0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	74	1.82	3.16	0.00	76.19	なし
020200XX99X4XX	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2 4あり	19	1.00	2.39	0.00	75.95	なし
020200XX9710XX	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等1 あり 手術・処置等2 なし	1	3.00	8.57	0.00	76.00	なし

解説

第1位は白内障で眼内レンズを挿入する手術を受けられた症例です。ほとんどが日帰りか一泊入院となっております。平均年齢も比較的若く、現役世代の方も多いため、お仕事・家事等への支障が最小限になるように短い入院日数での治療に努めています。第2位は主に加齢黄斑変性症で、薬剤を硝子体に注入する治療の目的で入院される症例です。原則、日帰り入院でおこなっています。

※ただし、「全国の平均在院日数」欄は、DPC対象病院Ⅲ群の平均在院日数

③初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

単位:例

	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発
胃癌	1	0	1	1	5	1
大腸癌	2	3	4	0	0	0
乳癌	1	1	0	0	0	0
肺癌	0	0	0	4	0	2
肝癌	0	0	0	0	0	2

解説

消化器系の癌については、当院で画像検査・内視鏡検査で発見された癌をその場で内視鏡手術で切除したり、外科医と速やかに連携して早期に開腹手術をおこなえる体制をとっています。
日本消化器学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医の資格を持つ常勤医師が在籍しています。
初回手術の後、必要な患者様には継続して化学療法も受けていただいております。
それ以外の癌については、近隣の医療機関で初回手術をおこない、継続治療を当院で行っていただいている患者様が多いです。

④成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数 (人)	平均在院日数 (日)	平均 (歳)
0:軽度	10	12.50	59.00
1:中等症	49	21.88	76.00
2:重症	44	41.77	85.89
3:超重症	12	29.33	85.42

解説

重症度が上がっていくほど平均年齢も高くなっており、高齢～超高齢の方で、中等症から重症の症例が多くなっております。

平均年齢、平均在院日数にも現れているように、高齢の患者様ほど重症で在院日数も長くなる傾向があります。
高齢の患者様は重症化しやすいですが、そのような状況でも早期に適切な治療、早期離床のためのリハビリテーション、退院後の受け入れ先の調整等を積極的におこない、多くの方が軽快退院されています。

⑤脳梗塞のICD10別患者数

ICD-10	傷病名	発症日から	症例数 (件)	平均在院日数 (日)	平均年齢 (歳)	転院率 (%)
G45 \$	一過性脳虚血発作および 関連症候群	3日以内	2	6.50	56.50	0.00%
		その他	4	6.25	81.50	0.00%
G46 \$	脳血管疾患における 脳の血管(性)症候群	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I63 \$	脳梗塞	3日以内	18	32.89	80.83	16.67%
		その他	3	27.33	64.67	0.00%
I65 \$	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	1	24.00	74.00	0.00%
I66 \$	脳動脈の閉塞及び狭窄、 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I675	もやもや病くウイリス動脈輪 閉塞症	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%
I679	脳血管疾患、詳細不明	3日以内	0	0.00	0.00	0.00%
		その他	0	0.00	0.00	0.00%

解説

脳梗塞の急性期治療に関するデータを算出しています。
症例数は多くありませんが、受診・入院後早期にCT・MRIなどによる画像診断をおこない、速やかに注射薬による薬物療法、リハビリテーションを導入するなど積極的に治療をおこなっています。

⑥診療科別主要手術の術前・術後日数 症例数トップ3

●内科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均在院 日数 (日)	平均術前 日数 (日)	平均術後 日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K721-21	内視鏡的大腸ポリープ切除術（長径2cm未満）	100	12.31	4.23	8.08	0.01	66.25	なし
2	K7211	内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	18	3.06	0.78	2.28	0.00	66.50	なし
3	K664	胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術を含む）＜内視鏡下＞	13	87.15	41.23	45.9	0.22	84.31	なし

解説

内視鏡を使用した、結腸・大腸ポリープ切除術が多くなっております。
 健診・人間ドックで異常が見つかって受診・手術される方が多いので、平均年齢は66歳で当院の中では若い患者様が多いと言えます。
 大腸ポリープは放置すると癌化する可能性が少ないため、早期の切除をおすすめしています。
 お仕事や家事への支障が最小限になるよう、当院では2～3日での入院を原則としてポリープ切除術をおこなっております。
 一方、高齢・超高齢で寝たきりの患者様が多く、嚥下機能が低下した方に、残存した消化機能を生かし、効率よく栄養を摂取できるよう、また、手術による身体への負担を最小限にするため、内視鏡による胃瘻造設術も多くおこなっております。
 退院後、転院となる患者様は、近隣の療養型病院や精神科病院から紹介入院となった患者様が紹介元の医療機関へ戻られる形の転院となっております。

●外科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均在院 日数 (日)	平均術前 日数 (日)	平均術後 日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	9	6.22	4.00	2.22	0.00	65.33	なし
1	K608-3	内シャント血栓除去術	9	1.89	0.11	1.78	0.00	73.33	なし
1	K6335	鼠径ヘルニア手術	9	2.60	0.50	1.22	0.07	74.20	なし
4	K672	胆嚢摘出術	4	24.25	13.00	11.25	0.00	65.50	なし

解説

腹腔鏡を使用した胆嚢摘出術を多く実施しています。
術後の創が小さい、身体への負担も少ない、術後の回復が早いというメリットがあり、若い世代の患者様に都合の良い手術と言えます。
また、当院では透析治療をおこなっており、透析用の内シャントに血栓ができてしまった患者様にすみやかに血栓除去術をおこなえる体制も整えております。

●整形外科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均在院 日数 (日)	平均術前 日数 (日)	平均術後 日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K0461	骨折観血的手術（大腿）	4	20.25	3.00	17.25	0.00	85.00	なし
1	K0811	人工骨頭挿入術（股）	4	90.75	5.25	85.50	0.07	83.25	なし
3	K0731	関節内骨折観血的手術（股）＜内固定を行なう＞	2	33.00	20.50	12.50	0.00	75.50	なし
3	K0442	骨折非観血的整復術（前腕）	2	38.50	3.50	35.00	0.00	86.00	なし

解説

高齢の方が、転倒して大腿骨を骨折して手術に至る症例が多いです。
平均年齢も80歳代と高いですが、術後のリハビリテーションを積極的におこない、ADL低下の予防に努めています。

●眼科

順位	コード	手術名	症例数 (件)	平均在院 日数 (日)	平均術前 日数 (日)	平均術後 日数 (日)	転院率 (%)	平均年齢 (歳)	患者用パス (URL)
1	K2821口	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）	69	1.12	0.65	0.47	0.00	75.60	なし
2	K2822	水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	5	2.80	1.40	1.40	0.00	83.80	なし
3	K2801	硝子体茎顕微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	2	2.00	0.00	2.00	0.00	75.00	なし

解説

高齢者に多い、白内障の手術を多く実施しています。
1～2日の入院がほとんどで、お仕事をされている方にも支障が少ないように日帰り入院もおすすめています。

⑦その他

	最も医療資源を投入した疾患	入院契機疾患	患者数 (件)	発症率 (%)
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0.00
		異なる	10	0.73
180010	敗血症(1歳以上)	同一	6	0.44
		異なる	12	0.88
180035	その他真菌症	同一	1	0.07
		異なる	0	0.00
180040	手術・処置等の合併症	同一	0	0.00
		異なる	0	0.00

解説

これらの疾患は、治療を困難にさせる難治性の感染症等です。
 当院では認定感染制御医の資格を持つ常勤外科医が在籍、定期的に感染防止委員会・勉強会を開催し、感染症の予防と治療をおこなっています。